

Title	電力会社による天然ガス権益獲得の有効性検証：上流進出のステップ提言
Sub Title	
Author	奥原, 三貴(Okuhara, Miki) 大林, 厚臣(Obayashi, Atsuomi)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2013
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2013年度経営学 第2823号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002013-2823

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学位論文（ 2013 年度）

論文題名

電力会社による天然ガス権益獲得の有効性検証 —上流進出のステップ提言—

主 査	大林 厚臣 教授
副 査	岡田 正大 教授
副 査	清水 勝彦 教授
副 査	斎藤 卓爾 准教授

2014 年 1 月 6 日 提出

学籍番号	81230175	氏 名	奥原 三貴
------	----------	-----	-------

論文要旨

所属ゼミ	大林厚臣研究会	学籍番号	81230175	氏名	奥原 三貴
(論文題名) 電力会社による天然ガス権益獲得の有効性検証 —上流進出のステップ提言—					
(内容の要旨) 電力会社の燃料調達費とは、海外から輸入する発電用燃料の調達コストだ。このコストをコントロールする戦略を打てるか否かが、既存電力会社の生き残り戦略のひとつとなる。理由は、日本の電力会社各社が直面する二つの環境変化だ。一つは、経営コストを圧迫し電気料金に影響を及ぼす燃料調達費の上昇。二つ目は、電力小売り全面自由化に伴う市場競争システムの導入、である。 この二つの変化は彼らの経営に多大な影響を与える。2011年の東日本大震災後、電力各社は原子力発電所の稼働を停止し火力発電比率を増やさざるを得ない状況となった。国内資源に乏しい日本は、火力発電に必要な天然ガスをはじめとする発電用燃料の9割以上を輸入に頼ってきた為、火力発電比率の上昇は燃料費の上昇に繋がり、彼らの経営を圧迫している。また、2016年導入予定の自由化により従来の独占供給市場はなくなり、新規参入事業者との顧客獲得競争が始まる。電気料金やサービスを他電力会社と比較され選択される立場に変わる。選択肢の重要ファクターのひとつになると言われている電気料金は、燃料費に大きな影響を受けている。よって、自由化対策に燃料調達コストの低減が含まれる。 これらへの対応策のひとつとして、現在総合商社にその業務の多くを依存している天然ガス調達に電力会社自ら進出する動きがみられる。ガス田権益を保有し買主から売主の一員になることで燃料の安定安価な調達ルートを獲得し、二つの環境変化に対応しようとしているのだ。 本論文では、この電力会社の新たなビジネスの有効性を検証した。検証方法は、公表データ分析とインタビューを行った。公表データ分析では、日欧の既存天然ガス契約を参考に電力会社各社の上流進出の特徴を分析。進出理由やその背景を分析。インタビューは、公表データからは分からない当事者達のビジネス実態を聞きだす目的で、大手電力会社、大手総合商社燃料調達担当者に実施した。立場や事業態の異なる二業界へのインタビューは大変有効で、上流権益獲得に向け必要なプロセスや阻害要因を定性的に解明することに成功した。 検証の結果、電力会社による天然ガス権益獲得の有効性に関し、以下のことが判明した。 『現状の電力システム下では、燃料調達ルート分散のための戦略にバリエーションを与えるという限定的な役割において有効である。』 以上を踏まえ、日本で起こりうる電力自由化を4ステップでシミュレーションし、以下のような日本市場に即した進出形態を提言する。 ステップ1) 高圧需要家みの自由化：総合商社の燃料調達ビジネスを学ぶ ステップ2) 小売全面自由化：上流ガス田権益に少数分散投資 ステップ3) 発送電分離：他企業、異業種企業を巻き込み上流ガス田に分散投資 ステップ4) 電力ガス市場の規制が撤廃され相互乗り入れ可能なエネルギー市場の創出：新たな収益源をガス事業に求め上流オペレーター進出					